

高等学校

修学旅行レポート

中国

上海
蘇州
南京

姉妹校との交流会も成功 2年ぶり2度目の中国

A班：2004.11.09～13

B班：2004.11.10～14

*下記日程はA班のものです。



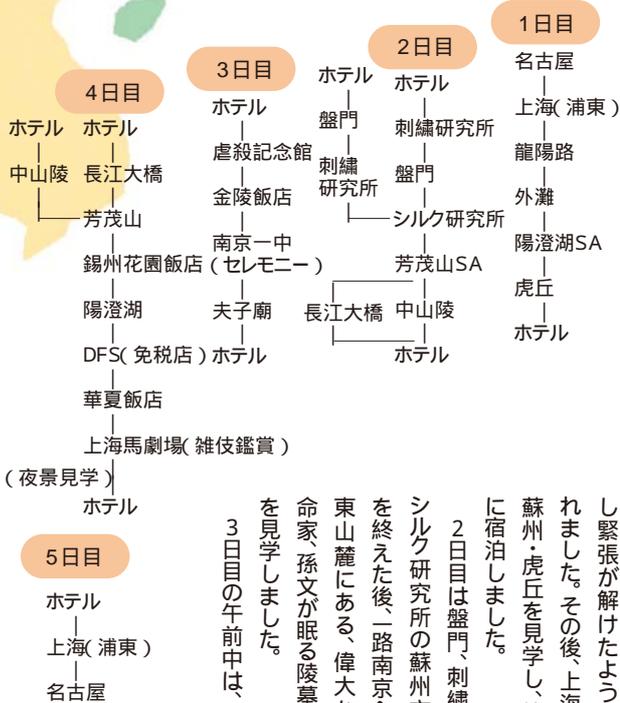
南京・中華門



南京市第一中学校との交流会(右・下)。中国の中学校は日本の高校に相当する



南京虐殺記念館での慰霊祭



(夜景見学)

5日目

ホテル
上海(浦東)
名古屋

2年ぶりの中国修学旅行は順調に準備が進んでいきましたが、9月に姉妹校の南京市第一中学校から、市の統一テストが旅行中に行われるため、交流会が実施困難との連絡がありました。しかし一中の好意で、A班は中学3年生と予定通り実施、B班は夕食会での交流となりました。さらに10月末、航空ダイヤ改正でB班の日程を再度組み直すことになりました。

11月9日の出発日は天候もよく快適な飛行で、長江の河口を見ながら上海浦東国際空港に無事着陸しました。空港から上海市内の龍陽路駅までは世界最速のリニアモーターカーで時速431kmを体験。初めての海外で緊張している生徒もいたようですが、リニアに乗って少し緊張が解けたように感じられました。その後、上海・外灘と蘇州・虎丘を見学し、竹輝飯店に宿泊しました。

2日目は盤門、刺繍研究所、シルク研究所の蘇州市内見学を終えた後、一路南京へ。市の北東山麓にある、偉大な民主革命家、孫文が眠る陵墓の中山陵を見学しました。

3日目の午前中は南京虐殺記念館で、慰霊祭を実施しました。小雨が降る中、生徒らは傘もささず文句も言わずに整然と行いました。さすが淑徳の生徒と、他校の生徒との違いを見せられた感がありました。

一中生徒との交流を深めた夫子廟での自由行動

午後は姉妹校の南京市第一中学校を訪問し、歓迎セレモニーに出席。その後、生徒は夫子廟で一中生徒と自由に交流を行い、買い物や話に夢中のように。夕食会では両校の出し物があり、本校はパトンの演技や吹奏楽の演奏、馬頭琴の演奏などを行いました。会場は大いに盛り上がり、最後はビンゴゲームで締めくくり、楽しいひとときを過ごすことができました。修学旅行のメインである一中生徒との交流会が大成に終わったのは大変よかったです。

4日目は南京から上海へ大移動。教員から事前に、南京に行くからには生徒に長江を見せたいという声があったため、朝早くホテルを発ち長江大橋を見学しました。長江大橋は中ソの蜜月時代、ソ連の指導で建設される予定だったのが、両国の対立でソ連が途中で投げ出し、中国人が1968年に自力で完成させた橋です。今でも当時の橋桁の一部が残っていました。

上海のDFSでは、親から頼まれたのか多くの生徒が免税品を買っていました。夕食時には上海で仕事をしている本校の卒業生、花井優子さんにお話をしていたいただきました。夕食後は上海雑伎の鑑賞で、いずれの演技も拍手喝采。特に最後、大きな丸い籠の中を4台のオートバイが走り回る演技には全員が驚いたようです。夜は車中から外灘の夜景を見学しました。

最終日は浦東空港から路、名古屋へ。飛行機が着陸したときには生徒たちから安堵の拍手が上がりました。生徒が無事に帰国できたことを引率教員としてよかったと思うと共に、生徒にはいい経験をさせられたと思います。来年度以降も充実した修学旅行にしたいと思います。

蘇州・虎丘の門



上海・浦東地区より外灘を臨む



中学校 研修旅行レポート 沖縄

日常を離れて 多くを学び感動を味わった3日間

2004.10/25 ~ 27



体験学習で生徒が制作した漆喰シーサー



体験学習
(上：紅型、下：エイサー)



体験学習(三線)



首里城

東南植物楽園



今年度で3年目を迎えた沖縄研修旅行、相次いで上陸する台風を心配していたところ、大型台風24号のコースが旅行予定の沖縄にかかると判明。出発中止も含めて対策を考え、緊張して当日を迎えましたが、生徒たちの願いが届いたので、とうとう、台風のコースは沖縄を取り巻く形で、南国の抜けるような青空と、エメラルドグリーン

の沖縄の海の色まで楽しむことができました。

1日目、「ひめゆりの塔」と資料館見学。食い入るように展示や証言集を読む生徒たち、4月から総合学習の「環」として長い時間をかけて沖縄について調べ、各自のテーマを掘り下げてきたのですが、実際の資料によって学ぶ迫力は何よりも大きかったよ

うです。糸数壕や轟壕の暗闇も実際に体験し、ホテルに到着した後で、「ひめゆり学徒隊」の生存者島袋淑子さんから当時の沖縄の人々が味わった悲惨な戦争の証言を聞いたことも、生徒たちのこれからの人生の大きな糧になったに違いありません。島袋さんの話に涙、生徒たちによって感謝の気持ちで歌われた「さとうきび畑」を聞いて島袋さんも涙。涙の本当に貴重な時間でした。

台風24号もそれ、素晴らしい体験を重ねる

2日目、沖縄に根付いた伝統文化や人々の生き方について学ぶことも大きな目標です。沖縄市にある「東南植物楽園」と恩納村の「琉球村」を見学しました。亜熱帯の珍しい植物や昆虫、牛が回ってさとうきびを絞っている風景なども目に新しいものでした。午後は恩納村の商工会の皆さんのお世話で、沖縄料理・三線弾き・漆喰シーサー作り・さとうきび収穫など7つのコ

スに分かれて実際に沖縄の文化を体験しました。これも生徒たちは大変熱心に取り組み、指導者の方から本当に中学生生のかと驚かされたくらいでした。

3日目は、今帰仁のホテルを出発する前、ほとんどの生徒が沖縄の美しい砂浜に出て波と遊び、貝や小さなサンゴを拾ったりする体験もしました。世界遺産の今帰仁城址ではガイドさんが語る本土とは違う築城の様子に耳を傾け、遠くに見える海岸線に感激していました。その後、首里の石畳の道を歩き、首里の街の班別散策・首里城見学を行いました。少々時間が足りなかつたようです。

日常の生活を離れて多くのことを学び、感動を味わった3日間。集合の時間もほとんど守ることができました。旅行後の生徒たちの満足度調査でも1日目の南部戦跡巡り、2日目の体験学習への評価が大変高く、沖縄研修旅行の所期の目的は今年度も十分達成できたことを確信しています。



平和祈念公園



メインステージ

後夜祭(右)
花火(左)



1号館をメイン会場に
「きらめき祭」開催



装飾された階段

フリーマーケット



味的にも装飾的にも素晴らしいものでした。

メインステージではゲストに

お笑いの鉄拳とドトよに来ていただききました。しかし1日目は朝から降り続く雨により、鉄拳のライブが記念会堂に変更

になったり、ダンスチームの演舞場所も変更になる中、琉球太鼓やチャリディングが雨の中懸命にステージを盛り上げてくれました。

2日目は曇りで、スケジュール通りに行われました。中でも後夜祭は今までになく大勢の方々が集まり、トーチトワリングに花火という火を使ったアトラクションにより感動のエンディングを迎えられました。

今年もあいにくの雨となっておりましたが、多くの関係者の方々の協力により、無事に大学祭を終えることができました。(大学祭実行委員会委員長 太田有紀)

星が丘キャンパスは、愛知淑徳学園100周年記念にむけ、「きらめき祭」と新たに名前をつけ今年新設されたリアフリー完備の1号館をメインに、活気のある大学祭が開催されました。校門をくぐり、はじめに目に入るのは正面階段に鮮やかに施された装飾で、大学祭の臨場感をアピールしていました。

1号館では、ゼミ・サークル・学外団体による教室企画や、実行委員によるミニゲームお化け屋敷が行われました。お化け屋敷は開場から絶えず行列ができる程の人気でした。また、2階で行われたフリーマーケットは地域の住民の方たちの参加もあり、予想以上の賑わいを見せ、大学祭をより一層盛り上げていました。

2004.10/30sat・31sun Shukufusai Report

第29回 淑楓祭



テーマは「一祭入魂」
4200人以上が来場



正門(上)・分別ダストボックス(下)

メインステージ



今年のテーマは、「一祭入魂」でした。この言葉の通り、実行委員が淑楓祭という一つの祭りを中心(魂)を込めて作り上げ、来場者4224人の皆さんに淑楓祭を中心(魂)から楽しんでいただくことができた祭りになったと思います。

長久手キャンパスの目玉となるメインステージでは、笑いまhow(吉本さんちの大騒ぎ)が盛大に行われ、ゲストには吉本の若手芸人5組が順番に登場し、熱狂ファンも含め観客を笑いの渦に巻き込みました。毎年恒例となっている、一般も参加するフリーマーケット、環境保護団体クラブ「VIVERE」によるD・R・Pシステムの導入を始め、今年も実行委員手作りの9種類の分別ダストBOXが学内各所に並び、環境問題への意識の高さを感じさせる祭りとなりました。

今年もあいにくの雨となっておりましたが、多くの関係者の方々の協力により、無事に大学祭を終えることができました。(大学祭実行委員会委員長 太田有紀)



スタンドグラス風に装飾された夜の1号館

フリーマーケット

